

## 令和3年度 第9回 小平市建築審査会議事録

### 1 開催日時

令和4年3月16日（水）午後2時から3時まで

### 2 開催場所

市役所5階 502会議室

### 3 出席者

小平市建築審査会委員：金子 敏夫 会長  
澤田 孝信 委員  
内田 輝明 委員  
井上 揺子 委員

小平市建築審査会専門調査員：黒羽 倫子 専門調査員

特定行政庁：馬場 建築指導課長

田村 建築確認担当課長

木曾 審査担当係長

齋藤 審査担当主任

曾我 審査担当主事

事務局：郷間 建築指導課長補佐兼管理担当係長

香取 管理担当主任

### 4 傍聴者

1名

### 5 次第

#### 1 議題1 建築基準法に基づく許可案件の審議

議案第15号 一戸建て住宅の新築に係る未接道許可〔花小金井三丁目〕

議案第16号 小学校の増築に伴う高さの限度の緩和に係る許可〔鈴木町一丁目〕

議案第17号 小学校の増築に伴う日影規制の緩和に係る許可〔鈴木町一丁目〕

#### 2 その他

(開会)

会 長： それでは、ただいまより令和3年度第9回小平市建築審査会を開催いたします。本日の審査会は、審査委員5名のうち4名の方が出席しておりますので、小平市建築審査会条例第5条第2項の規定により、会議は成立しております。

なお、本会議ですが、小平市建築審査会条例施行規則第3条第1項の規定により、公開となります。

本日、傍聴人はおられますでしょうか。

事務局： 1名います。

会 長： それでは、傍聴人の方1名、入室のため会議を一時休憩いたします。

(傍聴人入室)

会 長： それでは、会議を再開いたします。

傍聴人の方に申し上げます。小平市審議会等の会議の公開に関する事務取扱要領第8条の規定により、会議の開催中は、傍聴席において静粛に傍聴することとし、拍手その他の方法により公然と賛否の表明、写真撮影・録画・録音、その他会場の秩序を乱し、審議の支障となる行為はなされないようお願いいたします。

それでは、議題1、建築基準法に基づく許可案件の審議を行います。議案の説明をお願いします。

建築確認担当課長： それでは、議案第15号の説明をいたします。議案書をご覧ください。

本件は一戸建ての住宅を新築するに当たり、その敷地の接する道が建築基準法に定める道路に該当しないことから、接道義務を緩和するため、建築基準法第43条第2項第2号の規定に基づき、許可申請がなされたものです。

建築主は、株式会社成和設計。敷地は、小平市花小金井三丁目64番8。用途地域は、第一種低層住居専用地域。指定建蔽率、容積率は、それぞれ40%、80%。建築基準法第22条に基づく屋根の構造制限区域、第一種高度地区が指定されております。

建築物の概要ですが、主要用途は一戸建ての住宅。敷地面積は125.23平方メートル。建築面積は50.07平方メートル。延べ面積は92.76平方メートル。高さは8.475メートル。構造は木造。階数は地上2階となっております。

資料1敷地の位置ですが、西武新宿線花小金井駅から北に約2キロメートルのところ。右側の詳細案内図ですが、赤で示してい

るのが建築基準法施行規則第10条の3第4項第3号に該当する通路、黄色で示しているのが建築基準法に基づく道路を表しております。赤枠で囲ってあるのが申請敷地です。敷地が接する道は行き止まりの道で、東側で建築基準法第42条第1項第1号に基づく道路に接続しております。

資料3をご覧ください。現況写真となります。

道は、昭和45年頃より使用されており、現況幅員4.0メートル、延長9.51メートルで舗装されております。

写真①及び②は、道が接続する建築基準法第42条第1項第1号に基づく道路である市道から、道との接続部分を南側、北側それぞれから写したものです。写真③は、市道と道との接続部分から道の終端部方向を写したものです。写真④は、申請敷地から道と接する部分を写したものととなります。

資料4をご覧ください。

協定内容説明図となります。本件道について、建築基準法の道路とするよう指導いたしました。が、隅切りの寸法が不足しており、地権者の協力が得られなかったことから、位置指定道路とすることができませんでした。このため、道の部分の権利者で将来とも道として維持管理していく旨の協定を締結し、権利者4名中3名の方から承諾が得られております。

承諾がいただけなかった方の状況でございますが、本件道を将来とも道として維持管理していくこと自体に反対するものではないものの、協定文の中に「今後も建築基準法上の道路となるように努力する」という一文が入ってございまして、この文言があるために将来強制的に隅切りを負担しなくてはならなくなるのではないかとということが懸念されるということで、その部分のところだけ承諾できないということで、協定全体としての承諾には至らなかったといった状態でございます。

道の部分につきましては、昭和45年頃より50年以上道として使用されており、敷地との境界も明確になっていること、承諾をいただけなかった方が所有している道の部分の地目が既に公衆用道路になっていること、下水道が道の中央付近、またガス管が道の南側部分に敷設されていることなど将来にわたって道として維持管理されるものと考えております。

資料5-1をご覧ください。配置図となります。

敷地は、道に有効で2メートル以上接しております。また、申請建築物は、隣地境界線より有効で50センチメートル以上の離隔を確保しております。

資料5-2が1階平面図、次の資料5-3が2階平面図となります。

資料5-4をご覧ください。

立面図と断面図になります。屋根及び外壁は申請地で求められる防火性能を満たす仕様としております。

また、道を道路とみなして道路斜線制限と同様の高さ制限を課しておりますが、制限に適合した建築計画となっております。

議案書にお戻りください。3の特定行政庁の所見の最後の部分となります。以上のことから、当該許可申請の建築計画は、その敷地が避難及び通行の安全等の目的を達するために十分な幅員を有する通路であって、道路に通ずるものに有効に接しており、交通上、安全上、防火上及び衛生上支障がないと認め許可したいと考えております。

議案第15号の説明は以上となります。

会 長： どうもありがとうございます。

それでは、ただいまの説明について、委員の方から何かご質問、ご意見がありましたら、ご発言をお願いします。

委 員： この案件は、4メートル以上確保されるので、そこについては特に質問いたしません。この取付道路が市道になっています。その許可が昭和52年で、完了が53年の開発行為の道だと思いますが、その前にこの道には昭和45年から家が建っていたのですか。そうすると、開発行為の道路は、家を造るために道路を入れますが、その前から家が建っていたのか、その辺の経過が分からなかったものですか。例えば2項道路であれば、2項道路で開発行為は要らないと思いますが、わざわざ開発行為を行っているのにその道路がなくても昭和45年に建てられていたというのがどういうことかなと、そこがお分かりになりましたら教えていただければと思います。

建築確認担当課長： その経緯までは調べてはいませんが、この道を囲う4宅地と道の部分が分筆されたのは昭和45年になります。

委 員： 小平市は都市計画法の網がかかったのは何年ですか。

建築確認担当課長： 都市計画法については、昭和25年以前から都市計画区域になっております。

委 員： 昭和25年からあるのですか。昭和48年ではなく。

建築確認担当課長： はい。昭和25年には全て全域都市計画区域になっています。詳しくは調べてみます。

委 員： これは今回の案件とは関係はありませんが、もし分かりましたらということで。

建築確認担当課長： 次回以降の回答となりますが、経緯を調べてみます。

会 長： ほかに何かご意見等ありますか。よろしいですか。  
よろしいということです、次の議案について説明をお願いします。

建築確認担当課長： それでは、次の議案第16号ですが、その次の議案第17号と同一の建築物に対する案件であるため、一括して16号と17号のご説明をしたいと思います。よろしいでしょうか。

会 長： お願いします。

建築確認担当課長： それでは、一括してご説明しますが、まず、議案第16号の議案書をご覧ください。

本件は、第一種低層住居専用地域内にある小学校において、校舎や付属の倉庫、自転車置き場など13棟を増築するものですが、増築する建築物のうち校舎棟が第一種低層住居専用地域に関する都市計画において定められた建築物の高さの限度である10メートルを超えるため、建築基準法第55条第3項第2号の規定に基づく高さの制限の緩和に係る許可申請がなされたものです。

建築主は、小平市長及び株式会社システムハウスアールアンドシー。敷地は、小平市鈴木町一丁目352番2外13筆。用途地域は、第一種低層住居専用地域で、高さの限度は10メートル。指定建蔽率、容積率は、それぞれ40%、80%。建築基準法第22条に基づく屋根の構造制限区域、第一種高度地区が指定されております。

建築物の概要ですが、主要用途は小学校。敷地面積は1万5,163.85平方メートル。建築面積は、申請部分が503.25平方メートル。うち許可対象は440.49平方メートル。既存部分が2,968.70平方メートル。合計3,471.95平方メートル。延べ面積は、申請部分は1,226.44平方メートル。うち許可対象は1,163.68平方メートル。既存部分が6,428.32平方メートル。合計7,654.76平方メートル。高さは、申請部分が10.950メートル他。既存部分が10.930メートル他。構造は、申請部分が鉄骨造、既存部分が鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造他。階数は、申請部分が地上3階。既存部分が地上3階他となっています。

なお、建築主が小平市長と株式会社システムハウスアールアンドシーの連名になっているのは、増築する校舎についてリース方式を採用し、株式会社システムハウスアールアンドシーが校舎を建築した後、市がそれをリースすることになっているためでございます。その他の付属建築物については、市自らが建築いたします。

まずは、資料1-2案内図をご覧ください。

敷地の位置ですが、西武新宿線花小金井駅の南西約1.2キロメ

ートルのところでは、敷地の東側には小金井カントリー倶楽部が広がっております。

資料1-3 用途地域図をご覧ください。

赤ハッチの部分が申請敷地です。第一種低層住居専用地域で高さの限度は10メートルが指定されております。

次の資料1-4 周辺状況図をご覧ください。

敷地の北側には、2階建ての住宅が立ち並んでおります。その西側の公共施設は市の学童クラブとなっております。敷地の東側は、道路を挟んで2階建ての住宅や共同住宅が立ち並んでおります。その南側は、小金井カントリー倶楽部が広がっております。敷地の南側には、主に2階建ての住宅が立ち並んでおります。敷地の西側には、大学の学生寮と市の地域センターが建っております。

資料1-1に戻っていただきまして、理由書をご覧ください。

現在、本件小学校の学区内においては、大規模な開発などにより児童数が増加傾向にあり、令和5年度には教室数が不足することが見込まれております。

また、理由書の別紙1にあるように、現在も文部科学省の定める小学校設置基準における校庭の面積が足りていない状況ですが、今後見込まれる児童数の増加を考慮すると、さらに校庭の不足面積が増加する中、西側隣地に配慮して約6.5メートルの外壁の離隔距離を確保しつつトラックコースを斜めに配置するなどの工夫をして、校庭の面積を可能な限り確保するため理由書の別紙2の配置図に示す位置に地上3階建てで校舎を増築することになったものです。

また、建築物の高さについても、必要な断面高さを確保しつつ、普段の使用を含め安全な校内環境を確保するため、既存の校舎へ接続する渡り廊下に段差を生じさせないよう建築物の高さを既存の校舎に合わせる計画としたため、高さの限度を超えることとなったものです。

資料1-5 配置図をご覧ください。合わせて次の資料1-6 建築物のリストをご参照ください。

配置図の既存建築物のうち、グレーに塗りつぶしてあるものが基準時である昭和48年11月20日より前に建築されたものです。基準時より前の建築物は、昭和39年に最初に建築され、その後、数回にわたり増築がなされております。建築年度によって幾つかの部分に分かれておりますが、①の校舎棟の高さが10メートルを超えております。

基準時以後については、昭和60年に緑のハッチ部分、①-7の

北校舎棟と渡り廊下を増築する際に10メートルを超えることから、当時の建築基準法第55条第2項第3号、現在の条文でいいますと、建築基準法第55条第2項ですが、これに基づく認定を受けて建築されております。

赤枠の建築物が今回の申請建築物ですが、②の校舎以外は付属の倉庫などで平屋建ての小規模な建築物となります。

資料2-1をご覧ください。

資料2-1は増築する校舎の1階平面図、次の資料2-2は2階平面図、資料2-3は3階の平面図となります。それぞれの階に二つの教室が計画されております。

既存の校舎に接続する渡り廊下については、1階がピロティ形式、3階は、屋根のない屋外空間となります。

資料3をご覧ください。増築する校舎の立面図となります。

次の資料4は、増築する校舎の断面図となります。

資料5、これは付属建築物の平面図、立面図、断面図となりますが、いずれも平屋建てで、高さは10メートル以下となっております。

資料6-1は、増築後の時刻日影図。

資料6-2は、増築後の等時間日影図となります。今回増築いたします部分の日影につきましては、西側の隣地に対して余裕を持った計画としております。

議案書にお戻りいただきまして、調査意見の最後の段落ですが、以上のことから本件許可申請に係る建築物は、学校であって、その用途によってやむを得ないと認め、許可したいと考えております。

議案第16号の説明は以上となります。

続きまして、議案第17号の説明をいたします。議案書をご覧ください。

本件は、第一種低層住居専用地域内にある小学校において、校舎や付属の倉庫、自転車置き場など13棟を増築するものですが、日影規制の基準時である昭和53年10月12日以前に建築された屋内運動場の日影が日影規制に適合しないことから、建築基準法第56条の2第1項ただし書の規定に基づき、日影規制の緩和に係る許可申請がなされたものです。

建築主、敷地、建築物の概要は、議案第16号と同じですが、併せて日影の規制値は、一号が指定されております。具体的な規制時間は敷地境界線からの水平距離が5メートルを超え10メートル以内の範囲における日影時間が3時間、敷地境界線からの水平距離が10メートルを超える範囲における日影時間が2時間で、日影の測

定面の高さは、平均地盤面から1.5メートルとなっております。

また、日影規制は、敷地単位で制限を受ける規定であり、かつ、建築基準法第56条の2第2項の規定により、同一の敷地内に複数の建築物がある場合には、これらの建築物を一つの建築物とみなして規定を適用させるため、既存建築物や付属の建築物も含め敷地内の全ての建築物が許可対象となります。

資料1-2案内図、資料1-3用途地域図、資料1-4周辺状況図は、議案第16号と同じ資料になりますので、説明は省略させていただきます。

資料1-1理由書をご覧ください。

議案第16号でも説明いたしましたが、現在、本件小学校の学区内におきましては、大規模な開発などにより児童数が増加傾向にあり、令和5年度には教室数が不足することが見込まれていることから、校舎棟などを増築するものですが、増築する校舎棟につきましては、隣地境界線から外壁までの離隔距離を約6.5メートル確保するなど周囲の居住環境に配慮しつつ、既存の校庭の面積を可能な限り確保し必要な教室数を確保するため、別紙2、配置図に示す位置に計画をしているものでございます。

資料1-5配置図をご覧ください。併せて次の資料1-6の建築物リストをご参照ください。

既存建築物の1、グレーに塗りつぶしてあるものが基準時である昭和53年10月12日より前に建築されたものです。敷地北側の住宅が立ち並んでいる部分に対しては、隣地境界線から外壁までの離隔距離を屋内運動場では約9.4メートル。プールポンプ室では約7.8メートルが確保されております。

また、西側の学生寮に面している部分に対しては、隣地境界線から外壁までの離隔距離を北校舎棟では約5.8メートル。南校舎棟では約6.1メートルが確保されております。

資料6-5と資料6-6をご覧ください。

基準時における時刻日影図と等時間日影図になります。

拡大図もなく着色もないので分かりづらいのですが、等時間日影図をご覧くださいと、3時間の日影が5メートルの規制ラインをわずかに超えております。屋内運動場の敷地が鉤型になっている赤い3時間の線の3.0と書いてある部分、その角の部分がわずかに超えております。お分かりいただけますでしょうか。これが基準時の日影の状況でございます。

資料1-5配置図にお戻りください。

基準時以後につきましては、昭和60年に緑のハッチ部分、①-



7の北校舎棟と渡り廊下が昭和60年に増築されております。増築に当たり確認済証及び検査済証の交付については、記録が確認できましたが、基準時に不適合部分があるため増築に当たっては、建築基準法第56条の2第1項のただし書の規定に基づく許可が必要ですが、それに基づく許可を受けたという事実が確認することができませんでした。当時の確認申請の書類など設計図書が現在存在しないため、詳細は不明ですが、現在はほぼ100%CADにより設計図書は作図されておりますが、当時は手書きによる設計図書の作成が主流であり、作図の精度に一因があり、日影規制に適合した設計図書が誤って作成され、それに基づく確認申請の審査やその後の完了検査などが行われたものではないかと推測されます。

資料6-1から資料6-4をご覧ください。

まず、資料6-1は、昭和60年の増築後の時刻日影図で、これが現状の時刻日影となります。

次の資料6-2は、昭和60年の増築後の等時間日影図で、これが現状の等時間日影を示しております。

資料6-3、こちらは昭和60年に増築した部分のみの時刻日影図となります。

これを見て分かるかと思いますが、昭和60年に増築した部分の日影につきましては、図面の左側の赤く着色してある日影規制に不適合になっている部分に影響を与えておらず、不適合部分の日影時間を増加させるものではありません。

資料6-4、こちらは昭和60年に増築した部分のみの等時間日影図となります。この等時間日影図を見て分かる通り、いずれの規制時間につきましても、敷地内におさまっている計画になっております。

資料1-5配置図にお戻りください。今回増築する建築物を赤枠で示しております。

議案第16号でもご説明しましたが、校舎棟につきましては、西側の学生寮に面している部分に対しては、隣地境界線から外壁までの離隔距離を約6.5メートル確保する計画としています。校舎以外の付属の建築物については、いずれも平屋建ての小規模な建築物となっております。

資料6-7から資料6-11をご覧ください。

まず、資料6-7は、今回の増築後の時刻日影図となります。

次の資料6-8は、今回の増築後の等時間日影図となります。

次の資料6-9は、今回増築する校舎棟のみの時刻日影図ですが、赤で着色した日影規制の不適合部分に影響を与えることはなく、不

適合部分の日影時間を増加させるものではありません。

次の資料6-10は、今回増築する校舎棟のみの等時間日影図ですが、敷地の西側に対して余裕のある計画としております。

次の資料6-11は、境界線から水平距離10メートルを超える範囲で規制される日影時間、2時間となっておりますが、そこから30分減じた1.5時間の日影時間が敷地境界線からの水平距離10メートル以内におさまっており、西側の学生寮の敷地に対して日影規制上も配慮しています。

資料2-1から資料5までは、今回増築する校舎や倉庫、自転車置き場など附属建築物の平面図、立面図、断面図となりますが、議案第16号と同じ資料となりますので、説明は省略させていただきます。

議案書にお戻りください。

調査意見の最後の段落ですが、以上のことから、本件許可申請に係る建築物は周囲の居住環境を害するおそれがないと認め、許可したいと考えております。

議案第17号の説明は以上となります。

会 長： ありがとうございます。

それでは、ただいまの説明に対して、委員の方からご質問、ご意見ございましたら、お願いします。

委 員： 資料1-6の一覧表ですけど、既存建物と今回の増築のことについてですが、失礼かもしれませんが、既存の3から9というのは多分、無確認で造られているのかなと思っているんですけど、この右の欄のところに建築基準法第12条第5項による報告と書いてあるんですけど、これはいつ頃されたのでしょうか。多分、今回の増築計画に際して、その前に整理するという形で法第12条第5項で報告されたと思うんですけど、それはいつ頃なのですか。

建築確認担当課長： 直前です。それが整理できたので申請に至っているということになります。

委 員： 分かりました。それともう一つよろしいですか。今回申請する建物というのは鉄骨造の3階建てなんですけど、この建築物は耐火建築物になるのですか。

建築確認担当課長： 耐火建築物です。

委 員： 分かりました。最終になる昭和60年の増築ということなんですけど、今回増築に際しては、初めてバリアフリー法を適用する形になるのでしょうか。そういう意味でエレベーターとか誰でもトイレ、既存の校舎には特にそういうような計画プランは何もされていない。今回が初めてでしょうか。

建築確認担当課長： バリアフリー法の適用になるのは今回の校舎の申請部分が対象になるということです。

委 員： そうですか。分かりました。ありがとうございます。

日影の許可ですけど、東京都の場合だと、一括審査による許可同意基準がございまして、当然その基準に合わせての既存建築物の増築という形で許可を下ろしていますが、今回、小平市の場合は、特にそこは表現されていませんけど、ベースとしては東京都の許可基準と大体同じようにクリアしているということによろしいのでしょうか。

建築確認担当課長： そういうものも参考にしつつ、許可の要件である周囲の居住環境を害するおそれがないかというのを加味しています。

委 員： 先ほどの1.5時間というのもそのような形の中でのチェックで30分短縮ということですか。

建築確認担当課長： そうです。

委 員： 分かりました。

会 長： ほかに何か。どうぞ。

委 員： 建築基準法のことではないですが、小学校設置基準に対しては、運動場の面積が不足しているということは変わらないわけですね。それについては、今後将来、何か基準に合致するように努力するとかそういった方向があるのでしょうか。

建築確認担当課長： 当初、隣地の学生寮の敷地を買う交渉をしたようですが、うまくいかなかったという報告を受けております。校庭の面積については、文部科学省が定めている小学校設置基準第8条に校庭の面積の規定にただし書がございまして、「地域の実態その他により特別の事情があり、かつ、教育上支障がない場合にはこの限りではない」と規定されております。その基準となる面積を満たしていなくてもそれでよしとしているところがあり、小平市はいいほうだと思いますが、都内の中心部では、恐らくはこのただし書を適用していると思われます。

建築指導課長： 小平市の場合、この周辺の地域が開発事業等によって人口が増えたというのがあります。現実的に令和5年度以降校舎のスペースが足りなくなるということで今回の増築になっているわけですが、基本的には人口減少に向かっていくというところがありますので、生徒の数も減っていくということが予想されます。

会 長： ほかに何か。よろしいですか。

今回の許可は、60年に本来であればやっていたはずだと。それを改めてきちんとする。

建築確認担当課長： それも含めて整理する。

会 長： ただ、図面が不正確かは分かりませんが、見逃した部分を今回きちんとするという発想でいいですか。

ほかに何か。よろしいでしょうか。

(なし)

会 長： それでは、以上で議案についての説明とこれに対する質疑を終了いたします。

これから、評議に入りますので、傍聴人の方は退室をお願いします。

(傍聴人退室)

会 長： それでは、これより評議に移りますが、本日付議された議案について、委員の間でさらに検討すべきことがあったらお願いします。よろしいですか。

ちょっと一つだけ教えてください。さっきから開発という話が出たのですが、システムハウスアールアンドシーは、開発事業者という関係じゃないですか。

建築確認担当課長： 違います。

会 長： 開発の受け皿としての教室を作るという考え方でいいですか。

建築確認担当課長： はい。

会 長： 分かりました。

建築確認担当課長： 今回リース方式というのを採用しまして、このシステムハウスアールアンドシーが全てのものを作ってそれを小平市が借ります。

会 長： 借りる。無償ですか。

建築確認担当課長： 毎月リース料を払います。

会 長： そうですね。分かりました。例えば、先ほどあったように人口減少とかで児童の数が減って、要らなくなるということはないですかね、不要になるということ。でも今、結構教室余ったりしているところもあるんですよね。

建築確認担当課長： 併せて今、35人学級化を図っているので、余っているというほどではどうもなさそうなんですけど。

会 長： 小平市では開発需要というのは強いんですか。

建築確認担当課長： まだ数年は恐らく微増ぐらいで、それを過ぎると恐らく下がってくるのではないかと思います。

会 長： 分かりました。ほか特に何かないでしょうか。

それでは、特にないようですので、評議を終わりましたので、傍聴人の方の入室を許可します。傍聴の方は戻らないと。

それでは、議案についてお諮りいたします。

第15号議案について、原案どおり同意するということでよろしいでしょうか。

(異議なしの声)

会 長： それでは、異議がないようですので、第15号議案について、同意することといたします。

続きまして、第16号議案について、原案どおり同意することによってよろしいでしょうか。

(異議なしの声)

会 長： 異議がないようですので、第16号議案について、同意することといたします。

続きまして、第17号議案について、原案どおり同意することによってよろしいでしょうか。

(異議なしの声)

会 長： ご異議ないようですので、第17号議案について、原案どおり同意することといたします。

最後に、その他について、委員の方から何かありますでしょうか。

(なし)

会 長： ないようでしたら、事務局から次回の日程についてお願いいたします。

事務局： お手元に配付していますとおり、来年度、令和4年度の小平市の建築審査会の日程をご覧ください。

こちらが年間のスケジュールになりまして、先日、日程の調整をさせていただきまして、7月と9月だけは第3週目の水曜日ではなくて火曜日になりますので、こちらだけお間違えのないようお願いいたします。

次回の審査会につきましては、令和4年4月13日水曜日、14時から601会議室での開催を予定しておりますので、よろしくお願いいたします。

会 長： ただいま、日程がありましたけれども、よろしくお願いいたします。

以上で、本日の建築審査会を終了いたします。

(閉会)

